



【釜山支店】

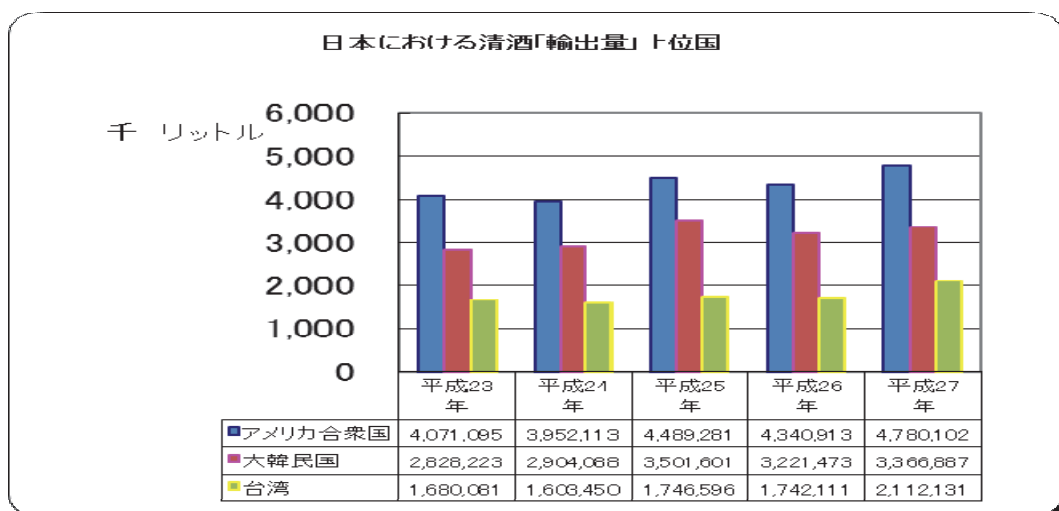
「韓国における日本酒事情について」

1. はじめに

韓流ドラマでもよく目にしますが、韓国でお酒といえば何といっても焼酎（ソジュ）です。食堂や屋台などで焼酎を目にしない日はないと言っても過言ではありません。サムギョプサル（豚肉）の焼肉に焼酎というのは韓国では定番ですが、最近では焼酎だけでなく、ワインやビール、日本酒といった日本でも馴染みのあるお酒が飲まれるようになってきています。

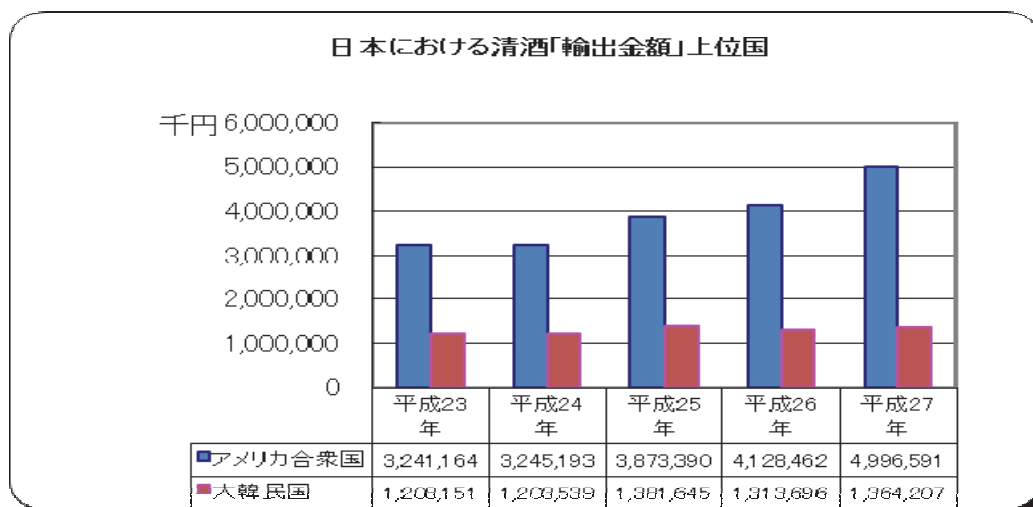
特に日本酒に関しては、日本酒に合う和食が平成 25 年にユネスコ無形文化遺産に登録され注目を集めていることや、韓国でも日本式の居酒屋が増加していることなどから、消費量も徐々に増加しています。今回はそんな韓国におけるお酒の中でも特に日本酒の事情についてご紹介したいと思います。

2. 日本における清酒輸出量・輸出金額の推移



出所：国税庁「酒類の輸出統計（速報ベース）」

まず、上図にあるように平成 23 年～平成 27 年の日本における清酒輸出量上位国の中に必ず韓国が入っています。韓国では平成 26 年を除いては年々消費量が増加しており、今後こうした傾向は続くものと思われます。



出所：国税庁「酒類の輸出統計（速報ベース）」

次に、日本における清酒輸出金額を見てみますと、伸び率で見ればやや緩やかな上昇にとどまっています。これは、韓国では一般的に日本酒の値段が高いため、比較的安い価格の日本酒を好んで飲むという要因があると思われます。具体的には、日本式の居酒屋では900mlの紙パックで3万ウォン（約3,000円）程度の価格であり、より美味しい日本酒を飲みたいとしても手を出しづらい状況になっています。

3. 韓国における日本酒流通事情

韓国では平成6年に日本酒の輸入が開放されました。歴史は依然として浅いですが、輸入量は着実に増加を続けています。日本酒の輸入については関税、酒税、教育税、付加価値税が課税され、加えて輸送料やマージンもかかるので、最終的な韓国の販売価格は日本の価格と比べて2～4倍以上になっている印象です。結果、一般的なお酒とは言いづらく、気軽に日本酒を飲みに行けるという環境にはありません。

また、韓国ではお酒に関しては法律により購入・販売が規制されています。輸入業者は酒類輸入業免許、卸売業者は酒類卸売業免許、小売業者は酒類小売業免許が必要です。日本から日本酒の輸出を行う場合、まず輸入業者と商談を行うことになります。韓国では独占契約のような契約形態が一般的で、一度輸入元を決めると他の輸入業者は取り扱うことが出来ないため、商談時には慎重さも求められます。輸入業者は卸売業者へ販売し、さらに小売業者へ販売され、最終消費者へ渡ることになります。

《関税等の税率比較》

●清酒（HSコード：2206.00.20.10）

① 関税：CIF価格の15%

※基本税率は30%ですが、「特定国家との関税協定による国際協力関税の適用に関する規定」により、15%の税率が適用されます。

② 酒税：〔CIF価格＋関税額〕の30%

③ 教育税：酒税額の10%

④ 付加価値税：〔CIF価格＋①関税＋②酒税＋③教育税〕の10%

●焼酎（HSコード：2208.90.40.00）

- ① 関税：CIF価格の30%
- ② 酒税：〔CIF価格＋関税額〕の72%
- ③ 教育税：酒税額の10%
- ④ 付加価値税：〔CIF価格＋①関税＋②酒税＋③教育税〕の10%

●ビール（HSコード：2203.00.00.00）

- ① 関税：CIF価格の30%
- ② 酒税：〔CIF価格＋関税額〕の72%
- ③ 教育税：酒税額の10%
- ④ 付加価値税：〔CIF価格＋①関税＋②酒税＋③教育税〕の10%

※CIFは貿易取引に用いられる取引条件の一つで「運賃・保険料込条件」のことをいいます。

※HS番号については、必ず現地税関に最新の番号を確認してください。

また、税率は毎年変わる可能性があります。World Tariff 等で、最新値をご確認ください。
（出所：日本貿易振興機構（JETRO）資料）

4. ソウル酒フェスティバル

日本酒をさらに韓国に広めようと、平成28年3月26日（土）～平成28年3月27日（日）の2日間の日程で、韓国地酒輸入業協会中央会主催、在大韓民国日本国大使館協賛のもと、「ソウル酒フェスティバル」が韓国ソウル市の江南区にある大型施設で開催されました。

このイベントは、日本全国のプレミアム地酒（地域酒、高品質のお酒）の試飲と、お酒に合う有名日本料理店の美味しい料理を試食できるアジア最大の酒イベントと銘打たれたもので、北海道から沖縄県まで79の蔵元が出展し、試飲用に約300種類のお酒が提供されました。

山口県から出展されていたのは、「かほり」の(株)山縣本店、「五橋」の酒井酒造(株)、「獺祭」の旭酒造(株)の計3社の日本酒が用意され、山口県の日本酒をアピールしていました。

今回のフェスティバルには日本酒関係者はもちろんですが、日本酒に日頃から関心を持っている韓国のファンの方々も多く来場し、多種多様な日本酒を楽しんでいました。



【ソウル酒フェスティバルにて】

5. 終わりに

韓国ではこのように日本酒に対する人気はあるものの、依然として規制が多いことや、関税等の諸税率の高さなどによる値段の高さがネックとなり、まだまだ手軽に飲めるお酒ではないのが実情です。

一方で、日本における日本酒の輸出量は韓国が第 2 位であり、韓国人の関心の高さが伺えます。良い香りやすっきりした味わいを持つ日本酒は世界的に見ても人気は上昇傾向にあり、今後韓国においてもますます人気が高まってくることでしょう。

高級なお酒というイメージが強いですが、日本のように本格的な日本酒が適正な価格で流通するためにも、ソウル酒フェスティバルのような機会を通じて、日本酒の理解を徐々に深めてもらい、韓国でも気軽に飲食店で日本酒を楽しみたいという風潮が高まることを期待したいところです。地方創生が叫ばれる中、韓国においても日本酒がさらに広まり、地元産の日本酒販売拡大に貢献できるよう、皆様のお手伝いをさせていただきます。ご相談お待ちしております。

以 上